

筑波研究学園都市記者会 御中

筑波大学

平成 18 年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) 及び
「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(医療人 GP) の選定について

このたび、文部科学省の平成 18 年度「特色ある大学教育支援プログラム」及び地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラムにおいて、筑波大学からそれぞれ下記のとおり選定されましたので、お知らせします。

記

〔特色 GP〕 修士課程：理工農系の教育の工夫改善を主とする取組
取組名称：「プロジェクト実習による高度専門技術者養成」

〔医療人 GP〕

取組名称：「資格指向型の新しい麻酔科研修プログラム
～シミュレーションプログラムの開発と急性期医療人育成への応用～」

※ 選定されたプログラムの概要は別紙のとおり

[本件に関する問合せ先]

〔特色 GP〕 「プロジェクト実習による高度専門技術者養成」
システム情報工学研究科 助教授 相山 康道 (あいやま やすみち)
電話 029-853-6180

〔医療人 GP〕 「資格指向型の新しい麻酔科研修プログラム」
人間総合科学研究科 教授 田中 誠 (たなか まこと)
附属病院 麻酔科 電話 029-853-3285

[プレス発表・取材に関する窓口]

国立大学法人 筑波大学 総務・企画部 広報課 広報・報道
専門職員 和田 雅裕 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
Tel: 029-853-2040 (ダイヤルイン) Fax: 029-853-2014

平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)

取組名称「プロジェクト実習による高度専門技術者養成」

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻

(1) 取組の目的

筑波大学第三学群工学システム学類と大学院システム情報工学研究科知能機能システム専攻では、学類から博士前期課程に至る6年間を一貫したカリキュラムを整備することによって、専門の枠にとらわれない幅広い総合力、企画・立案能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力を持った高度専門技術者を育成することを目指している。その一環として本学類・専攻では、複数のプロジェクト型実習授業を開講してきた。本取組では、博士前期課程において、プロジェクト型実習授業を中心としたコースワークの充実と拡充を重点的に推進する。

(2) 取組の全体像

(2)-1 学類における取組実績

本学類では、ロボティクスにおける能力の育成を目的とした「つくばロボットコンテスト」、プロジェクトの立案とプレゼンテーション能力の育成を目的とした「研究・開発原論」、ソフトウェア開発能力の育成を目的とした「近未来マルチメディアシステム実習」などが開講され、内外で高い評価を得ている。例えば「つくばロボットコンテスト」は、学生はプロジェクトチームを組み、ロボットの設計、製作、プロジェクトマネジメントを自らおこなう。この授業には文系、医学、芸術などの学類生や、近隣の企業の技術者もゲスト参加している。意欲のある履修者が相互に刺激し合うため、自主性や問題解決能力が自然に引き出され、活気のある授業となっている。県や市の要請に応じて、各種のイベントでの公開競技も積極的に実施している。

(2)-2 専攻における取組実績

本専攻博士前期課程においては、平成18年度から、プロジェクト型実習授業（「知能機能システム特別実験」）を中心としたコースワーク型カリキュラムを開始した。このカリキュラムは、大学院に相応しい高度な専門知識と最先端の技能を習得させ、即戦力となる技術者を養成することを目的としている。まず、先端的技能を習得させるために、実習授業において、最新のCAD/CAEソフトウェアとRapid Prototyping装置（3次元造形装置）を利用したプロジェクト課題を実施する。さらに、プロジェクト推進に必要な高度専門知識を習得させるために、講義授業を組み合わせたコースワーク型のカリキュラムを構成した。すなわち、知能機能システム特別実験の単位取得には、指定された講義授業科目の中から5科目の履修を必須とした。このコースワークの特徴は、複数分野（本専攻が教育する5分野中2分野）の講義科目と実習科目をリンクさせている点である。例えば、講義科目で学んだ内容を、翌週には実習授業で応用するといった具合である。単に個別の講義科目と実習の組み合わせとは違い、複数の分野の講義科目が1つの演習授業とリンクすることにより、学生は1つのプロジェクト推進に、複数の専門知識を総合的に応用する能力を身につけられる。

(2)-3 今後の計画

今後は、博士前期課程におけるコースワークの整備を中心に取り組む。まず、既設の実習授業のための設備を充実させる。また、数年以内に新しい実習授業と、異なる学問分野の講義科目から構成されるコースワークを新設する。これによって、学類から博士前期課程に至る学問レベル的充実と、複数の学問分野に渡る分野的な充実を図る。

(3) 予算規模

1, 500万円程度（平成18年度予定）

(4) 取組開始時期

平成18年10月～（平成21年3月まで）

(5) 対象学生

システム情報工学研究科 知能機能システム専攻学生

本件に関する問合せ先

システム情報工学研究科 知能機能システム専攻
助教授 相山康道（あいやま やすみち）
電話 029-853-6180

平成18年度 「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」
(医療人 GP)

取組名称 「資格指向型の新しい麻酔科研修プログラム ～シミュレーションプログラムの開発と急性期医療人育成への応用～」

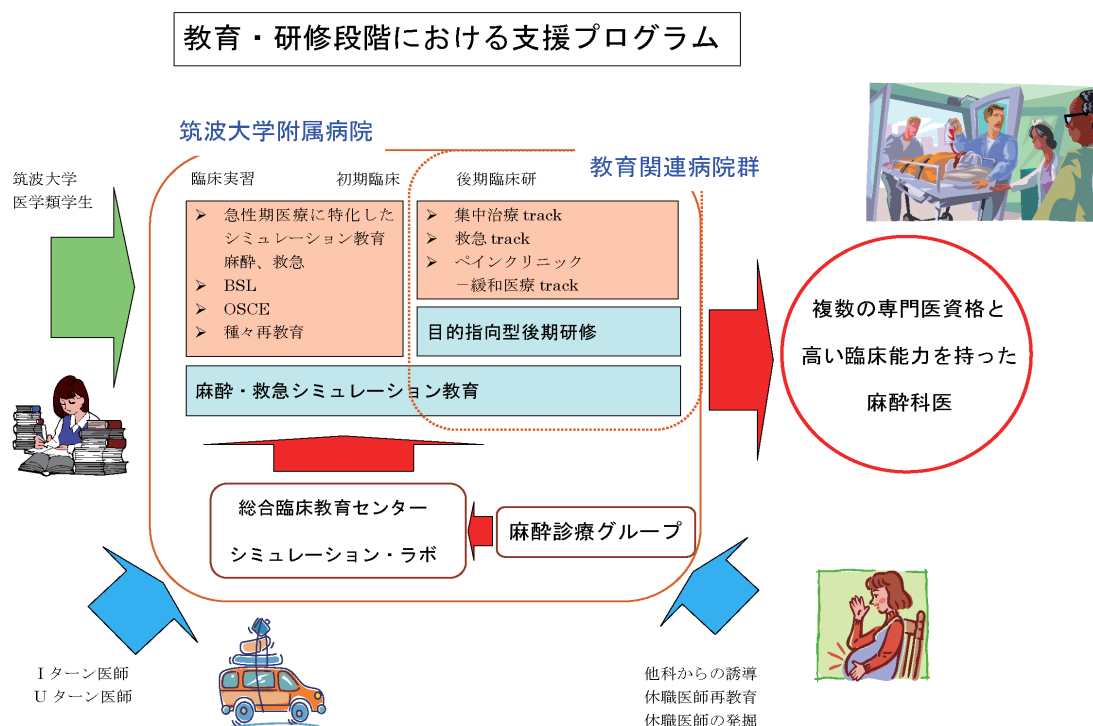
(取り組みの概要)

本取組は、茨城県において麻酔・救急医療を担う質の高い医師を養成するための継続的、包括的、資格指向型教育研修プログラムである。本プログラムの特徴は、

- ① 専任のプログラム・ディレクターを配置し、卒前から専門研修まで一貫した体系的研修を行う
- ② 導入から専門研修までの各段階においてシミュレーション・プログラムを新たに開発し、多彩な急性期医療の現場において対応できる幅広い臨床能力を獲得する
- ③ 麻酔専門医資格に加え、救急、集中治療、ペインクリニックー緩和ケアの3つの track を設け、複数の専門医資格が取得できる

本プログラムにより、学生・研修医は早期から麻酔・救急医療の魅力を体感でき、多様なニーズに対応できるプログラムによって生涯のキャリアパスを明確にイメージ出来ることから、ライフワークとして麻酔・救急医療を選択する学生・研修医が増加し、将来地域で活躍する急性期医療人を数多く養成することが期待できる。

- ◆ 予算規模：2,890 万円（平成18年度予定）
- ◆ 実施開始：平成18年10月
- ◆ 対象者：医学専門学群医学類学生及び附属病院レジデント



問い合わせ先

人間総合科学研究科・教授（附属病院・麻酔科）

田中 誠（たなか まこと）

電話 029-853-3285